

Cantabile

2014. March

Vol. 9

発行
山形県音楽教育連盟
山形県小中学校教育研究会音楽部会
発行日
平成26年3月31日

最北



村山



置賜



庄内



表現活動で大切にしたいこと

会長 佐藤 文昭

東京オリンピックの二〇二〇年開催が決まった。七年後といえば、今の小中学生が、選手として充分活躍できる頃であろう。自分が出場しないまでも、同世代が活躍する場面を実際に見ることは、なかなか経験し得ないことである。スポーツに心燃やす子どもの中には、七年間の具体的な進路を思い描く子どももいるだろう。めあてや夢を持ててこそ、人は意欲が沸いてくる。そんな意味でも、この決定は、とても明るい話題を振りまいてくれる。

ところで、この決定に大きく影響したと言われているのが、周到な準備をチーム日本として整えてきた総合力とプレゼンテーションの素晴らしさである。プレゼンの構成やその内容も含めて、今までの日本では為しえなかったやり方で、オリンピックに対する思いをアピールし、JOC委員に好印象を与えた。全員に共通するのは、まず思いを伝えられる英語力。そして、笑顔たつぷりの表情の豊かさではなかったか。

さて、音楽教育においても、相手に思いを伝える総合的な力、すなわち、プレゼンテーション力の育成が、今後益々重要になってくるのではないかと思われる。

作詞家、作曲家の思いがこもった詩や曲を演奏者が表現へと結びつける。それを鑑賞する人がいて表現活動は成立している。

表現活動においては、音楽を伝える相手意識をないがしろにはできない。曲の本質へ迫る自分の思いを膨らませて伝えるだけではなく、聴いてくれる人に共感してもらえよう表現のあり方を考えていきたいものである。

村山地区

【小学校】

期 目 平成二十五年十一月二十二日(金)

会 場 山形市江南公民館

内 容

実践発表

- ① 山形市立蔵王第一小学校 佐藤浩子教諭
・「音楽性を高める卒業式の歌」
- ② 上山市立南小学校 富田俊子教諭
・「表現を工夫して楽しもう」

「こころのうた『とんび』の

指導を通して」

- ③ 天童市立成生小学校 工藤睦子教諭
・「響き合う合唱をめざして」

- ④ 寒河江市立柴橋小学校 安藤典子教諭
・「ICTを活用した音楽づくり」

「世界の音楽に親しもう」の実践

講 演

「これからの音楽の授業づくりを考える」

○講師 山形市教育委員会

大沼清司主任指導主事

・思考力・判断力・表現力を重視した学習指導のポイントについて

・「共通事項」アの学習を支えとしながら、言葉による表現と、音による

音楽表現を相互に関連付けて指導することが大切である。

・どのように表現したいのか、子ども自身が思いや意図を明確に

確にもち、音楽表現を高めていく過程を大切にしたい。

・鑑賞領域においても、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考える過程を大切にしていく。

担当 清野(溝延小)

担当 清野(溝延小)



担当 芦野

(河北中)

【中学校】

期 目 平成二十五年九月十一日(水)

会 場 山形市立第六中学校

内 容

「モデルクラスを使った合唱指導」と「合唱指導の実技指導」

講師 鶴岡市立第五中学校

五十嵐 久教諭

- (1) モデルクラスを使った合唱指導

・一年生と二年生のクラスを使つての歌唱指導。初めに生徒の合唱を聴く。その後

に先生の指導を受けて合唱をする。特に「姿勢」驚いたような顔(目)で歌う「体

全体で歌う」「ブレスが大事」等、発声についてご指導をいただく。

- (2) 合唱指導の実技指導

・鶴岡第五中学校の合唱コンクールのDVDを見て、並び方の工夫や運営の

仕方等、実践をお聞きした。よい合唱を聴く機会が減ってきたため、感動体験が

少なくなってきた、歌えない(歌うことが苦手な)生徒が増えてきた。そのため

には、先輩のよい合唱を聴かせて、合唱についていいなと思えるようにする。さら

には、自己満足でなく、きちんと立って歌えるようにすること、周りの声に合わせられるような歌い方・発声を指導して

いく必要がある。

また、先生が作られた「音楽科通信」「合唱コンクールへの

取り組みについて」の資料をいただき、様々な場面での大事なポイント

を教えていただいた。

担当 芦野

(河北中)

置賜地区

期 目 平成二十五年十月三十日(水)

会 場 飯豊町立飯豊中学校

講師 富澤 裕氏(作曲家・合唱指導者)

内 容

- (1) 全校合唱指導の参観

曲名「With You Smile」

「今の歌声は、自分としては何点か」という問いかけをし、減点した部分をどうやって改善すればいいかを生徒自身に考えさせ、自分達の力でよりよい合唱を作っていくという意欲を持たせる指導を参観させていただいた。歌詞のとらえ方や発声の仕方のアドバイ

スもとても参考になった。常に最高のものを求めて精一杯練習することの大切さを教えていただいた。

- (2) 講話

・中学生は自分自身の力で成長できるので自分たちはうまいという意識を持たせ、もつと上限をあげようという意欲を高める。後は歌詞の歌い方や発声をアドバイザーなので、気力が充実していなければ声を出すことはできない。飯豊中の授業を受けようとする姿勢はすばらしかった。

・感動が空気の塊になって、いい声を作る。高い声を出しやすくするための練習(麦

わら帽子のつばを揚げながら、頭に通した鉄棒を握りながら高い声を出すなど)を工夫し、要求されていることは何かをはっきりさせて練習に取り組ませる。

・参観者のアンケートへの回答

○中学校一年生の男声パートは、変声していない生徒は、一オクターブ上を歌わせるなど工夫する。

○全校合唱は全校生が心をそろえる場なので何をしなければならぬかきちんと意識させる。六年生の声をまねして一年生にもいい声を出そうという意識を持たせる。教科書で学んだことが全校合唱に生きるようにしたい。

担当 細川(赤湯小)



庄内地区

【小学校】

期 目 平成二十五年十一月二十八日(木)

会 場 鶴岡市立朝日小学校

内 容

「拍の流れにのろう」

「せんりつづくり」

拍子の違いや音の変化に気をつけて、お

囃子に合わせた旋律をつくる学習を、井上

順子先生に公開していただいた。子どもた

ちは、音符カードを参考にして二小節のリ

ズムをつくり、五音を使って旋律を仕上げ

ていった。その後、グループごとにリコー

ダーで演奏し合い、お互いのよさや改善点

などを話し合うことができた。

事後研では、先生方から「子どもたちは、

音の長さをよく理解している。」「楽譜を

見て、音や旋律をイメージさせたい。」な

どの意見が出された。また、音楽授業にお

ける電子黒板などの効果的な使い方なども

話題になった。さらに、小中連携を考えた

指導のポイントなども話し合わせ、充実し

た研究会となった。

担当 大山(三瀬小)

【中学校】

期 目 平成二十五年十二月五日(木)

会 場 酒田市立第一中学校

内 容

「日本の楽器の響き「鹿の遠音」

「西洋の管楽器とは違う尺八の音色や独

特の表現を味わって鑑賞しよう」という

テーマを設定し、「鹿の遠音」の始めの部

分をフルートと尺八の演奏で比較鑑賞を



担当 池田(酒田四中)

平成25年度

4地区・

高等学校研究協議会

あしあと

最北地区

○最北地区音楽教育研究協議会

期 目 平成二十五年十一月十五日(金)

会 場 村山市立葉山中学校

内 容

- (1) 研究授業

・授業者 佐藤宏之

・題材名 津軽三味線を弾こう

・教材名 「さくらさくら」

・学 年 3年

生徒は、開始前からずっと集中して三味

線の練習に取り組んでいた。総合の活動で

経験した生徒と初めての生徒との技能面の

個人差が大きかったが、音の特徴をよく聴

きとって、それに近づこうと試行錯誤して

いた。

- (2) 研究協議

・指導助言 荒木雅彦氏

(山形市立第六中学校教頭)

課題の大切さ、子を育てる活動、教科教

室制としての音楽室のよさなど、授業づく

りの本質についてご指導助言をいただいた。



担当 鈴木(東根一中)

小松(常盤小)

○音楽科実技研修会

期 目 平成二十五年十一月十二日(火)

会 場 村山市立榎岡中学校

内 容

「我が国の音楽(箏)の指導に係る

講義と実技演習」

○講師 福士幸雄氏

(岩手県山田町立山田中学校校長)

小・中ともに、初めて箏に触る先生方が

大半であった。参加者の先生方の関心が高

く、「さくらさくら」を教材として箏の基

本的な奏法とあわせて児童生徒への指導の

ポイントを明確に知ることができ、充実し

た研修会となった。

担当 鈴木(東根一中)

小松(常盤小)

高等学校

期目

平成二十五年六月二十七日(木)、
二十八日(金)

会場

山形県立谷地高等学校
天童ホテル

内容

(1) 研究授業

山形県立谷地高等学校 原田順子教諭
「工夫ある創作表現に挑戦しよう」
普通科一年生の音楽選択者十七名による
音楽Iの授業を公開した。「スタンド
バイミー」を教材楽曲として、コードネー
ムの仕組みを理解し、曲にあったリズムを
創造し、キーボードを用いてグループ内で
発表した。グループ内で互いに協力しなが
ら、悩みながらも明るく積極的にリズムを
創りあげていく生徒と、それをサポートし
ていく教師の信頼関係に好感を持つことが
出来る授業展開であった。

(2) 研究演奏

マンドリン合奏
・演奏曲目
「アルハンブラの想い出」「ルンバ」

担当の村山地区の教師十六名、及び講師
二名で、マンドリン合奏の研究演奏を行っ
た。トレモロ奏法を用いてのアルハンブラ
宮殿のエキゾチックな
印象の表現と、ピッキ
ング奏法によるアップ
テンポなルンバの対照
的な演奏であったが、
練習の積まれたよい研
究演奏を行った。



(3) 講演会

○講師 東北芸術工科大学
美術史・文化財保存修復学科
准教授 米村祥央氏

・演題

文化遺産の修復とサイエンス

東北芸術工科大学文化財保存修復学科は
全国初の大学付属文化保存研究機関とし
て、自然科学分野を文化遺産の保存へ応用
するきわめて実践的な学問を行っている。
非破壊が原則の文化財を保存するために、
自然科学的なアプローチを行い不可視情報
を可視化させることや、災害にあった文化
財のレスキューなども行っている。祖先か
ら受け継いだ遺産は決して現代人の専有物
ではない。受け継ぎ次世代に伝えることが
大切であることを、活動の実践例を上げな
がら伝えて下さった。

(4) 研究発表

山形県立鶴岡南高等学校 阿部隆幸教諭
「音楽の授業における
情報機器の活用について」

もつと効率的に授
業を展開し演奏も充
実させたために、カメ
ラとモニターを使用
し「箏の授業で、手
元の奏法が全体に見
える」実践例を発表
した。細やかな指の
形や力をかける方向
などが、視覚的に正
確に確認できるよう
になり、生徒の理解
度があきらかに向上したという、実際の授
業の映像を用いての報告であった。



担当 中村(山形学院)

山形大学から―大学改革の現状など

山形大学地域教育学科 准教授 佐川 馨
1. 大学改革について

新聞報道等でもご存じのとおり、国立大学は平成
24年6月に策定された「国立大学改革プラン」に基
づいた改革の嵐に曝されている。法人化し独立した
存在になったとはいえ、国からの運営費交付金で成
り立つ学校であることに変わりはなく、むしろ法人
化前よりも現在の方が「国立感」が強くなっている
気がする。

昨年末には、前述のプランの施策の一つとして、
大学ごとの強みや特色を伸長し社会的な役割を一層
果たしていくために、各大学の学部ごとに「ミッシ
ョン(社会的役割の再定義)」がなされることとなっ
た。様々な分野に先だって医学、工学、教員養成につ
いてのミッションが発表されたが、本学は地域教育
文化学部が教員免許取得を卒業要件としない、いわ
ゆる「ゼロ免」であるため、教職大学院についての
み「ミッションの再定義」が発表された。そこでは
①教員免許取得に係るカリキュラムを更に実践にシ
フトした内容へと転換し、学校現場における実習等
の実践型学修を強化すること、②学校現場の教育経
験がある教員を大学教員として採用すること、③教
育委員会との連携を一層強化することなどが求めら
れている。

この「ミッションの再定義」は、将来的に各国立
大学の音楽科や本学の音楽芸術コースの在り様にも
影響を及ぼすことは必至である。どのようになって
いくのかは明らかにされていないが、これまで山形
大学が多数の優秀な音楽教員を県内はもとより東北
一円に送りだしてきたことは高く評価されているで
あるうし、山響や北高の音楽科を有する点において
も山形が、山形大学が東北の音楽教育の中核を担う
役割を果たしていくことは期待されるであろう。

今のところは、教育においても研究においても地
域との連携協働を進めていくことが大きな責務と考
えている。これまで以上に本学の教育研究活動に対
してご指導ご鞭撻を賜るよう衷心よりお願いしたい。

2. 山形大学音楽科の近況について

①音楽棟が改修工事中である。現在、第一期工事
が進められており、2月末には一部が完成し、引き
続き第二期、第三期工事が行われる。完工予定は5

月末頃であるが、その間の授業や試験、学生の練習
場所の確保が大変である。

残念ながら山大OBのみならずにとつて思い出深
い「ア実」は無くなるが、1階に収容規模200人
の「山形大学文化ホール」が建設され、合唱やオー
ケストラなどの授業はそこで行われる予定である。
また、これまでよりも広めのレッスン室も増設さ
れ、管楽器やアンサンブルの練習もし易くなるだろ
う。何よりも全練習室にエアコンが付くので、冬の
寒さや夏場の脱水症状の心配もなくなる。改修後は
社会教育施設的な活用も検討中である。県音連の行事
各種コンクール等の際にも協力していく計画である。

②24年度から3カ年計画で科学研究費補助金の支
援により「山形の音楽素材のeライブラリーと教
材開発」に取り組んでおり、間もなくホームページ
も開設される予定である。米沢市出身の大沼哲や山
形市出身の松島繁など、日本の洋楽黎明期に活躍し
た山形県ゆかりの音楽家を紹介していきたい。関係
の資料や情報の提供をお願いしたい。

③「山つ子コンサート」が復活。藤原義久先生が
取り組んでいた「山つ子コンサート」を、今年度は
置賜地方で行った。来年度は9月に庄内方面を中心
に行う予定である。希望校はご連絡をいただきたい。

あとがき

十一月東北大会が仙台市内で行われ、
宮城県の先生方の熱意ある研究大会を拝
見しました。まだ、復興半ばの学校も
多々ある中で、イキイキと音楽表現に取
り組む子どもたち、創意工夫ある授業を
展開する先生方の姿を見ることができま
した。マンネリ化した自分の授業を振り
返り、明日明日、また明日と先送りせず、
今やれる最善の授業を精一杯やろうとエ
ネルギーをもらいました。山形県も、冬
の研修会が秋開催となり、自己研鑽を積
もうと多くの先生方が集まりました。小
中高の枠なく、みんなで学ぼうと山形の
音楽教育も日々邁進です。

担当 色部(滝山小)
小島(山八中)